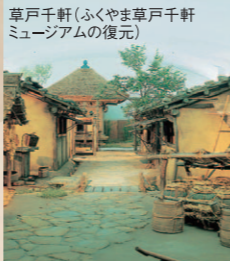


# motto Fukuyama

[もっと福山]

## 福山のあゆみ

- 瀬戸内海沿岸部で狩猟漁労による小集団が社会生活を送る
- ヤマト王権の影響を受けた豪族が古墳群を形成する
- 吉備国が備前・備中・備後に三分され、備後国に国司が置かれる
- 鞆の浦で大伴旅人らが詠んだ歌8首が万葉集に収められる
- 聖武天皇の勅願により備後国分寺が建立される
- 源平合戦の舞台となり、平家ゆかりの史跡や落人伝説が伝えられる
- 朝鮮や中国とも交易があったとされる草戸千軒が芦田川河口に栄える
- 常福寺(現明王院)の本堂と五重塔が建立される
- 足利尊氏が鞆の浦で光厳上皇から醍醐天皇の討伐を命じる院宣を受け取る
- 室町幕府最後の将軍足利義昭が鞆城に入り、幕府の再興を図る
- 徳川家康の従弟水野勝成が西国鎮衛の任を帯び、備後国10万石の初代藩主として入府する
- 水野勝成が福山城を築城し、城下を「福山」と命名する
- 芦田川の氾濫により草戸千軒が川底に埋もれる
- 朝鮮通信使が鞆の浦へ寄港し、福禅寺対潮楼からの眺望を「日東第一形勝」と賞賛する
- 福山藩主阿部正弘が江戸幕府の老中首座として幕政を統括し、日米和親条約を締結する
- 坂本龍馬らが乗った丸が紀州藩船に鞆の浦沖で衝突され沈没、鞆の浦で賠償交渉が行われる
- 廃藩置県により福山藩から福山県となる以降、変遷を経て広島県深安郡福山町となる
- 市制を施行して福山市となる(1916年7月1日)(以降、1市10町20村と合併し、現在に至る)
- 鞆の浦を含む瀬戸内海が「瀬戸内海国立公園」に指定される
- 福山空襲により市街地の約8割を焼失する
- ばら公園付近の住民が約1,000本のばらの苗を植える
- 繊維・下駄・塩田のまちとして発展する
- 単一工場としては世界最大の日本鋼管福山製鉄所の操業開始により、重工業のまちとして発展する
- 「ばら」を市の花に制定する
- 中核市に移行する
- 市制施行100周年を迎える(2016年7月1日)



私たちのまち福山  
今までも  
これから

弥生  
古墳  
飛鳥  
奈良  
平安  
鎌倉  
室町  
安土桃山

江戸

明治

大正

昭和

平成

福山から全国へ、海外へ。

# 大島衣恵



おおしまきみえ ● 1974年、シテ方喜多流職分である大島家の子として誕生。1998年喜多流初の女性能楽師に。大島能楽堂を拠点に能公演を行うとともに、多彩な普及活動を展開。2009年と2011年には英語能の海外公演も行い、注目を集める。

能楽喜多流大島家は、福山藩士だった七太郎が明治維新後に興し、代々備後一円で能楽の普及に努めてきました。

4代目政允の子である私は2歳で初舞台を踏み出しました。こうした家柄ですが、自然に能が大好きになりました。喜多流では女性の能楽師は認められていませんでした。「能にずっと携わるために、何が出来るだろう」。東京藝術大学で能を学ぶなど、可能性を模索しました。「やりたい」という強い気持ちと周囲の支援もあり、1998年には女性能楽師として活動できるようになりました。

私が演じるのは、能の主役であるシテ方。集力を高めて舞や謡を披露することに醍醐味を感じますが、能の所作には他の日本の伝統文化との共通点が多いのも魅力です。例えば立ち居振る舞いでは、余分な動きをいかに省くかが大切。動いていないこと、音を発していないこと、そのこと自体に意味がある。これが「間」です。能、茶道、華道、武道、雅楽と、日本は伝統文化大国。それに関わらず、「こつこつに」と遠ざけられていくのが現状です。

日本から伝統文化がなくなってしまうと、柱のない家



子ども頃は鞆の浦に泳ぎに行ったり、仙酔島に連れていかれたらいい。福山の豊かな自然の中で育ったのが私の原点ですね。その頃から図画や工作が得意でした。中学では美術部に入りましたが、型通りのスケッチが苦手で挫折も経験しました。高校では柔道部に入学。ハードな練習を繰り返す中で、気晴らしのつもりで美術部にも入り、デッサンの勉強を始めた。すると柔道も美術も鍛錬すれば必ず技術が身につく。上達することが分かったんです。これが大きな自信につながりました。

美術部顧問の若い先生は親身に指導をしてくださり、休日にはスケッチ旅行にも連れて行ってくださいました。高3の時、「野田君は美術の世界に進むべきだ」と親を説得してくださったのも先生です。今、私は世界各国で活動をして

子どもは鞆の浦に泳ぎに行ったり、仙酔島に連れていかれたらいい。福山の豊かな自然の中で育ったのが私の原点ですね。その頃から図画や工作が得意でした。中学では美術部に入りましたが、型通りのスケッチが苦手で挫折も経験しました。高校では柔道部に入学。ハードな練習を繰り返す中で、気晴らしのつもりで美術部にも入り、デッサンの勉強を始めた。すると柔道も美術も鍛錬すれば必ず技術が身につく。上達することが分かったんです。これが大きな自信につながりました。

美術部顧問の若い先生は親身に指導をしてくださり、休日にはスケッチ旅行にも連れて行ってくださいました。高3の時、「野田君は美術の世界に進むべきだ」と親を説得してくださったのも先生です。今、私は世界各国で活動をして

どこにもない、  
福山ブランドを  
創造しよう。

ニューヨークやギリシャなど世界を舞台に多彩な作品を発表し続ける現代アートの巨匠、野田正明さん。芸術家としての歩みやふくらむことである。福山への想いを聞きました。

# 野田正明



のだまさあき ● 1949年福山市新市町出身。大阪芸術大学美術学科卒業。1977年渡米。エリサベスカーディアス奨学金を受け、アート・スチューデントツリクに学ぶ。現在、ニューヨークを拠点にアジア、ヨーロッパなど国内外で幅広く活躍。

完成させたモニュメントには「いまこそ未来」というタイトルを付けました。そこには「現実には真正面から取り組み、未来を自ら切り開いていく」という意味を込めています。皆さんと一緒に、新しい福山を育てていきたいですね。

